

進捗状況の概要

本事業の本年度の目的は、主に3つあった。1つ目は、アクティブ・ラーニング実践のための体系的な実施プログラムを確立させることであり、特にタブレット端末を用いたICTを導入したアクティブ・ラーニングの実施については、そのより効果的な実施方法をシンポジウムで報告することであった。前者については、本学教員が実施するアクティブ・ラーニング教授法の実態調査に基づき、その特性を分類化し教員に周知することで、従来に比べより体系化されたアクティブ・ラーニングの実践を推進することができた。後者のタブレット端末を用いたアクティブ・ラーニングの実施については、「2015 アクティブ・ラーニングシンポジウム」のワークショップにおいてその活用的一端を紹介した。2つ目は、クリティカル・シンキングのアセスメントを本格的に実施・運用していくことであり、クリティカル・シンキング・アセスメントテスト（CAT）の学生への実施とアセスメント成果についての分析と検討を行うことであった。CATについては平成27年度に2回実施し、平成26年度に実施したCATとともに、その分析及び検討をCAT作成機関の分析結果報告も参考にして行った。3つ目は、e-ポートフォリオセンターを開設し、その管理・運営のもとに平成26年度に整備したシステム（ハードウェア）を基に導入したe-ポートフォリオを本格的に運用開始することであった。それらは平成27年度に運用を開始した。

（目的1に関して）アクティブ・ラーニングの授業における実践に関しては、これまで各教員がそれぞれのスタイルで行っておりその実態が不明であったが、本事業を通してその内容の観察と分析が行われ、それらに共通した特徴があることがわかってきた。これらによりその体系化が進み、その内容が明らかになってきたことで、教員のアクティブ・ラーニングに対する意識がより鮮明となり、授業の改善につながっているものと考えられる。タブレット端末の授業内外におけるアクティブ・ラーニングに資する利用は確実に進展している。

（目的2に関して）クリティカル・シンキングのアセスメントに関する多くの情報がCATを実際に本学の学生に実施することで得られた。CATの実施母体であるテネシー工科大学の答案分析結果報告から、本学独自のアセスメントテストの必要性が浮き彫りになった一方、CATの理論を利用したクリティカル・シンキングを高める教授法があることもわかり、それを教員間で共有することで、今後教授法の改善が期待できる。

（目的3に関して）Mahara（e-ポートフォリオ作成ソフト）の導入時期が諸事情で遅れ9月になり、学生へのオリエンテーションは後期（10月）からとはなったものの、継続的に行われたオリエンテーションにより、タブレットPCの貸与を受けた学生のほぼ全員（スケジュール、体調等で不参加の者を除き）が基本的e-ポートフォリオの使用法を理解するに至っている。さらに、その他の学生についても、できる範囲からオリエンテーションを実施し、e-ポートフォリオの使用法を理解させている。また、すでに授業内でe-ポートフォリオを活用しているところもあり、学生によるe-ポートフォリオの活用は今後さらに活発になっていくものと考えられる。